

<報告1>

平山小学校における新たな学びの実践

五十嵐俊子

日野市立平山小学校校長

皆様こんにちは。平山小学校校長の五十嵐と申します。本校の取り組みをご紹介します。
本校では、子どもが持っている力を最大限に発揮できるような「学びの場」をつくって
いこうというビジョンのもと、教育活動に取り組んでいます。私が着任した2009年度か
ら、公益財団法人パナソニック教育財団の特別研究など、さまざまな研究指定を受けるよ
うになりました。例えば、総務省の「地域雇用創造ICT絆プロジェクト(教育情報化事業)」
では、子ども1人が1台ずつ使えるだけの数のタブレットが配備されました。そして現在
は、防災教育のカリキュラムを開発する文部科学省研究開発学校の指定を受けています。

ただ、研究に取り組むメンバーは毎年変わります。着任期限は6年間。研究メンバーに
新たな赴任者を迎える4月は、毎年新しい学校になったかのように感じます。それでも研
究に取り組んできたのは、こういう学校にしていこうというビジョンをしっかりと持っ
ているからです。さらに、チームワークや、失敗を恐れずに挑戦しようという精神も引き
継がれています。

スライドの下部に並んでいる写真についてご説明します。左端は、職員会議の写真です。
若手にもベテランにも分かりやすいように、プレゼンテーション型の職員会議を行って
います。左から2枚目は校内研究、3枚目は「未来の教室研修」の写真です。「未来の教室研修」
とは、日野市内の公立小学校の教師を集めて本校で行う授業研修で、初任者もベテランも
本校の教師が全員で講師を務めます。今年はタブレットを用い、ミニ・アクティブ・ラー
ニングに挑戦する授業についての研修に取り組みました。また、スライド右端の写真にあ
るように公開研究会も行っており、5年間で延べ約5,000人のお客様をお迎えしました。
去年は安西先生もお招きしました。

本校が取り組む学びについて、ご紹介します。研究を始めた当初は、学力向上を目指し
て力を入れていました。教師1人がクラスの子ども全員を見取るのは大変なので、コン
ピュータに任せられるところは任せるようにしました。先ほどお話しした総務省のプロ
ジェクトで配備されたタブレットを子ども1人に1台ずつ配備し、子ども1人ひとりの回
答に応じて問題が変わり、誰がどこでつまづいているかを教師が画面上で簡単に把握で
きる個別学習支援システムを導入したのです。このタブレットが配備されて間もない頃に、
東日本大震災が発生しました。震災は、教育の目的や教師の役割といった根源的な問いに
ついて、校内で話し合うきっかけになり、子どもに未来を生き抜く力を育む、そのための
学びの場をつくるという、現在の本校のビジョンにつながる理念を学校全体で共有する
ようになりました。そして、先ほど安西先生が基調講演でおっしゃっていたように、ICTを、
主体的な学びや協働的な問題解決学習に挑戦するために活用するようになったのです。ま
た、子どもの未来へ生き抜く力を育みたいと、防災教育を基盤とする「生きぬく科」とい

う教科を新設しました。東日本大震災から、防災にかかわる教科が必要だと感じたからです。「生きぬく科」は、教科横断的で答えが一つに決まらない問題に取り組む教科です。自立した人間として他者と協働しながら未来を切り拓いていく実践力を身に付けるために、カリキュラムの改編を重ねています。

本校では、教師が一方的に話す授業、知識伝達型の授業を変える試みをしています。子どもにどのように学ばせようかと、若手教師とベテラン教師が話し合い、工夫し合っています。評価方法についても、挙手の頻度といった授業態度だけを見るのではなく、子どもがどのように何を学んだのか、いかに工夫して学んだのか、学びによってどのように変わったのかを正確に見ていきたいと考えています。評価方法にはまだ多くの課題があると思いますから、専門の先生方のアドバイスをいただきながら、検討しています。また、学習内容については、子どもが何を学ぶかが大切ことはもちろんですが、それに加えて、どのように学ぶのか、何ができるようにするかについても重点に置いて検討しています。

技術は日進月歩です。総務省から配備されたタブレットがもう古くなってきたのですが、新たに企業から提供を受け、同じ台数の最先端のタブレットを配備することができました。

新しいプロジェクトは「次世代型学びプロジェクト『ひの@平山小』」で、1) ICT を活用した「自立・協働・創造」、2) 学校と家庭の学びの接続、3) 学びの記録を活用した「学び・指導・評価」という三つのテーマを掲げています。特に重視しているのは学校と家庭の学びの接続です。授業の中で完全に理解することが厳しい子どもがいます。もっと手厚く見てあげられるように、新たな取り組みを始めようと思っています。また、学びの過程で成果物が見えるようにすることにも力を入れています。先日の授業では話し合いの様子を録音し、子ども自身が可視化されたその録音場面を見ながら、自分は他人の意見の大事なポイントを聴き落としているから自分の意見が変わっていないとか、自分は人の話を聞いてばかりいて自分の考えを表現していないというように、振り返りました。何をどのように話し合ったのか目に見えない成果も可視化して分析できるようにしたいと、始めた取り組みです。

国語の授業の様子を動画でご紹介しましょう。子どもは、文章を読んで得た自分の意見を根拠とともに発表します。友だちの意見を聴くことで、気づきが何倍にもなり、自分の意見も深められることを学べるでしょう。友だちとかかわりながら学ぶ授業は、国語以外のさまざまな教科でも行っています。

ここで、先にも少しお話しした防災教育を基盤とした教科横断型の教科「生きぬく科」を、改めてご紹介します。地球上の大地震の約2割は日本で発生すると言われていて、世界中の活火山の約7%が日本に集まっています。そのため、自然災害が起きた時にとるべき行動は、日本に住む誰もが身につけるべきでしょう。状況に応じて適する行動を考える力、実践力を養うためには、あらゆる教科から得られる知識と技術を総合する必要があるはずです。「生きぬく科」では、従来の理科や社会、保健、家庭科等を特に重視し、その内容を統合・追加・再編してカリキュラムを創り、主体的に学ぶ活動を通して実践しています。

「生きぬく科」の概念図はスライドに示した通りです。習得した知識や技能を活用して、身に付けた能力を発揮する10の「学習活動」を通して、実践力を育むという取組です。「生

きぬく科」の授業の一部を撮影した動画をご覧ください。

6年生の「生きぬく科」の最終単元は、「まちづくりプロジェクト」。クラス混交で6人が一組になって、社会をつくる、支援者になるという視点から地域の人へのインタビューなどの体験活動を行いました。6年生の感想はスライドに示しています。感想から伝わってくるのは、協働的な問題解決活動の成果です。子どもが自分と違う意見から学んだ、よく知らない他のクラスの友だちとも力を合わせることができた、協力すれば1人ではできないようなこともできるということを書く子どもが目立ちます。先ほどの安西先生の基調講演では、主体的に多様な人と協力して働くことの重要性が訴えられていました。そのための基礎となるのが、「まちづくりプロジェクト」のような協働学習に小学校から継続して取り組んでいくことではないでしょうか。

冒頭でもお話ししましたが、公立の学校では教師の異動がつきものですから、本校の研究メンバーは入れ替わっています。本校から異動した教師は赴任した学校で種を蒔いています。そして毎年新たに迎えた教師とともに教科横断的なカリキュラム創りと学び方の変革に取り組んでいます。目指しているのは、多様な価値観を受容し、価値観同士が融合することで新たな付加価値を創出するような、アクティブ・ラーニング型授業です。継続して新しいスタイルの授業を根づかせようと努力を続けています。これからは特に教師養成の変革にはじっくり腰を据えて取り組まなければならないと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

平山小学校における新たな学びの実践

本校のビジョン
全ての子供が自分のもっている
力を最大に発揮し、自分の力を
超えていく「学びの場」を創る

日野市立平山小学校
校長 五十嵐 俊子

本校が行ってきた“新たな学び”の実践

「未来の教室」の実現と 新たな学びの創造 —実践とエビデンス—

一斉学習に加えて
個別学習・協働学習を
教えられる学びから
主体的・創造的な学びへ



こんな研究に取り組んできました

2009-2010年度
パナソニック教育財団特別研究指定校
2010-2014年度
総務省
「地域雇用創造ICT絆プロジェクト校」
2011年2月から普通教室のTBP環境
2011-2012年度
パナソニック教育財団
「未来の教室」プロジェクト共同研究校
2013-2016年度
文部科学省研究開発学校
防災教育を基盤とした「生きぬく科」の創設
2015年度
2015 Microsoft Showcase School
2015-2016年度
産学官・次世代型学びプロジェクト
「ひの@平山小」

五十嵐@平山小

“新たな学び”をどのように進めてきたか

チーム 平山



一人一台のタブレットが導入されて5年間
先行実践校として、研究を続けてきました！
その秘訣は・・・
「ビジョンの共有」
「教職員のチーム力と挑戦力」

- ・公開研究会等を2011年度から15回実施し5000人来校
- ・毎年、年度当初の転入者研修で公開授業を実施
- ・毎年、夏の研修会で全教員が講師役（未来の教室を開催）

職員会議



校内研究



未来の教室研修



公開研究会



五十嵐@平山小

“新たな学び”を公開し、学び続ける

OUR INNOVATION GO BEYOND

We just be a government school, in very common suburb area.
We try to do what we can do for better usage of ICT in education.
We try to held as much as 'Open Schools' for rest of the schools.
Sometimes it is hard, to have many visitors with our limited resources. But We believe this support other teachers, schools to start something new.

We had many visitors all over Japan.
Our Innovative challenge spread word of the mouth.

Approx.5,000 visitors
in our school in the past 5 years.



五十嵐@平山小

“新たな学び”の目指す方向

★学力の向上を目指したICTの積極的な活用

個別学習 基礎的な知識・技能の習得
協働学習 思考・判断・表現力の育成



東日本大震災

我々がやるべきことは

- ・子供たちに未来を生き抜く力をつけること
- ・そのための学びの場を保证すること

★「主体的な学び」を目指したICTの日常的な活用

協働的な問題解決学習（アクティブ・ラーニング）

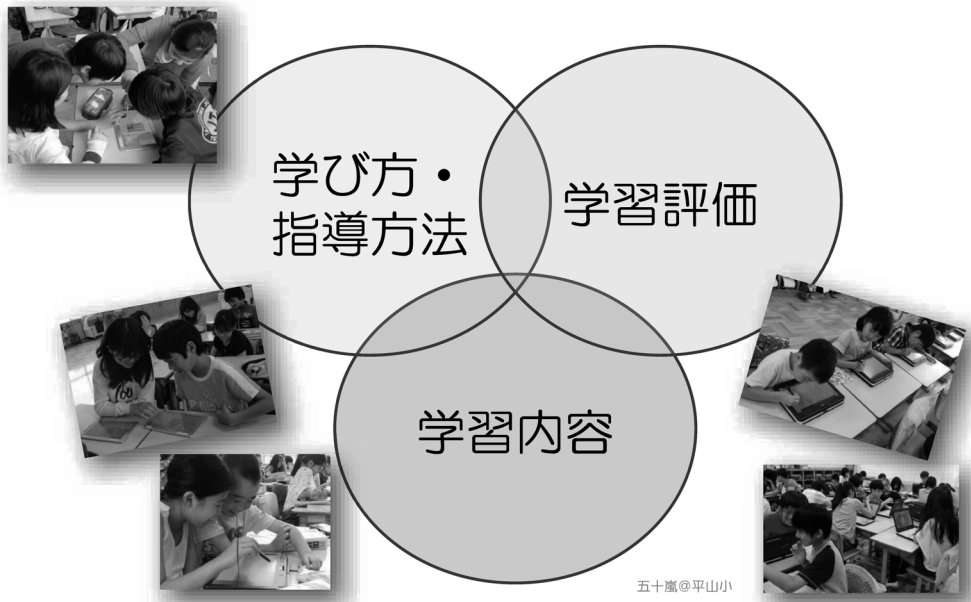
★防災について学ぶ教科の創設

新しいカリキュラムを作成（「生きぬく科」）

子供たちに「未来を生き抜く力」を付けるために
自らも学び続ける「チーム平山」

五十嵐@平山小

平山小の新たな学びの創造は いよいよ第2ステージへ 学び方の変革そして学ぶ内容の再編成





- 次世代に向けたICT活用教育の推進
- 学校・家庭・地域の連携型教育体制の構築



- 将来のBYOD時代に向けた教育環境の実証研究
- 学習記録を活用した学びと指導の研究



- 企業支援 製品・技術の提供 + 共同研究
- 教育・学習分野での新たな事業の創造



テーマ1：ICTを活用した「自立・協働・創造」

- タブレットを活用して基礎基本の修得とアクティブ・ラーニングを実現する。
- 自立した「個」が協働で問題解決するための道具としてタブレットを活用する。

テーマ2：学校と家庭の学びの接続

- 将来のBYOD時代に向け、安全で便利な次世代型情報環境整備のあり方を示す。
- 学校と家庭の学びの連続性をタブレットとクラウドを活用して実現する。

テーマ3：学びの記録を活用した「学び・指導・評価」

- 児童の学びの過程や成果物を次の学びや指導・評価に活用する。
- 学習過程の可視化ツールにより、少ない負担で指導の効果を向上させる。

五十嵐@平山小

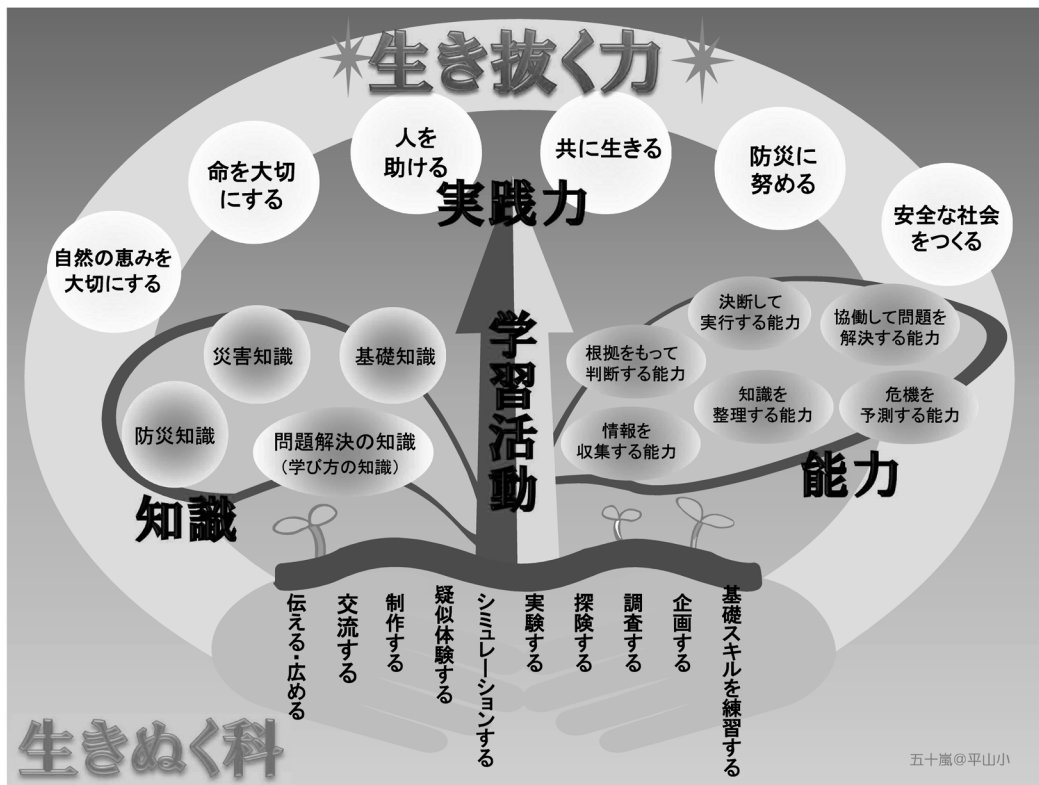
自然災害の多い我が国の将来を担う子供たちが、自立した人間として、他者と協働しながら、未来を切り開いていく実践力を身に付ける教科。

未来へ生き抜く力を育む新教科 防災教育を基盤とした 「生きぬく科」

未来を生き抜く子供たちに必要な力、防災安全の学習内容・学び方・評価方法を明確にして、系統的・体系的に学べるカリキュラムを開発。



五十嵐@平山小



「生きぬく科」のまちづくりプロジェクト 学習を終えた児童の感想

- インタビューをして、改めて一人一人考え方が違うことを学びました。
- どんな考えも、根拠を示すことで、相手に納得してもらえる確率が上がることを学びました。
- 知らない人でも、話したことがない人でも、ていねいに説明すると答えてくれたから、地域の人にも挨拶が気軽にできるようになりました。
- たくさんの質問を出してもらって、まわりの人はこのような視点で考えているんだということがわかり、学びました。
- クラスも違う6人のメンバーで考え協力する学習は、普段仲良くない人でも目標に向かって協力すればできるのだということを学びました。
- もちろん、生きぬくための知識を得ることができましたが、それよりも、チームで一致団結して取り組むこと、そしてできたものを、よりわかりやすくなるように色を付けたり文字の大きさを変えたり、みんなで細かい修正を加えて仕上げていくことの大切さを学びました。
- 仲間と協力する大切さ、他人から見たときにどう見えるか、客観的に見ることの大切さを学びました。

五十嵐@平山小

平山小学校でこれから取り組んでいきたい “新たな学び”

自然の恵みと畏敬の念。そして、時として現れる自然の驚異。
「どんな時も、かけがえのない自分の命を大切に守ってほしい。」
「人としての優しさを忘れずに助け合いながら幸せに生きてほしい。」
21世紀を生きる子供達が、未来を生き抜くための実践力をつけ、
災害に強い人間に育つために、生きぬく科を中心とした全ての教科で、
新たな学びへの変革を図っていく。

多様な価値観を受容し、それらがぶつかり融合する中で
新たな付加価値を創出する授業を目指していきたい。



- ・ 答えのない問題に解を見出していく場を設定する。
- ・ 考え方の異なる仲間と協働して問題解決していく場を設定する。
- ・ 子供がどう考え、どう行動したか、どう変容（成長）したかを評価していく。

【目指す授業の実現のために授業力を育成すること ⇒ 教員養成の課題】

五十嵐@平山小

